



大館駅からほど近い、釈迦内に工場を構える小滝電機製作所。工場内は常に変化し続け、見学に訪れる顧客を驚かせている。

「ものづくりにゴールはない」

チャレンジ精神をもって挑戦し続ける

家電部品から自動車部品へ。新規参入の壁をものともせず、2003年の伊藤春美社長の就任以来、数々の困難を乗り越えて成長を続けてきた小滝電機製作所。顧客の高い要求に応える力、困難な状況を乗り越える力の源泉は、チャレンジ精神とものづくりを楽しむ心。



代表取締役社長
伊藤 春美
Harumi Ito

小滝電機製作所の名を引き継いで

小滝電機製作所は1961年に東京板橋で創業した。創業者は伊藤忠夫氏(現・十和田オーディオ(株)取締役名誉会長)。ソニーの下請け工場としてラジオの生産を行っていたが、1974年の中通信工業との合併、及び新会社・十和田オーディオ株式会社の設立に伴い、一度その歴史を終えることとなる。それが復活したのは1980年。十和田オーディオの成長に伴い、家電製品の部品生産を担う企業として、新たな「小滝電機製作所」が設立された。

業績が順調に推移していた同社だが、90年代に入り、大手メーカーの海外生産へのシフトにより受注が減少。下請け業務に頼らない、新たなビジネス開拓の必要性を強く感じた経営陣は大幅な組織改革に着手した。ソ

ニー関連製品の業務を小滝電機製作所から切り離し、全くの新規事業を行う企業としての体制を整えることにした。2003年4月、伊藤春美氏が社長に就任し、小滝電機製作所は新たなスタートを切った。

自動車産業への新規参入

これまで培ってきた電子部品の技術の中核に据え、「通信」「映像」「自動車」の3つの事業の柱を立てることを目指し、同社は走り出した。当時の売り上げの中心は医療用カメラ、セキュリティカメラ、空気圧センサーなどで、自動車部品の受注は皆無。しかし、「安定と成長をもたらす事業として自動車分野は最重要」との考えから、自動車産業への参入を狙い続けた。そしてある日、自動車部品のサプライヤがLEDライトを製造できる企業を探しているという話が舞い込む。自動車の照明灯が

バルブ型からLEDに切り替わることによって、電子部品の技術・知見を持つ同社にチャンスが生まれたのだ。「チャンスは1度きりしかない」、伊藤社長はそう覚悟した。東海・関東地方の自動車関連部品メーカーを調査し、徹底的なベンチマーキングによって自動車業界の要求レベルを押し量り、インパクトのある価格を提示して折衝に挑んだ。距離のハンディがある中で、チャレンジングな価格設定を危ぶむ声もあったが、是が非でも最初のチャンスをもものにして実績を作る、それこそが次につながる、との判断から全社一丸となって突き進んだ。そして2004年、自動車照明灯大手のLEDストップランプの受注獲得に至る。それから徐々に実績が認められ始め、自動車メーカー大手のドアミラーに標準搭載されるサイドターンランプを受注。これを契機に自動車関連部品の売り上げが年々増加していくこととなった。2005年は売上げの3%に満たなかった自動車分野は、2017年には全体の80%を占め、同社の中核事業となっている。

挑戦する意欲と創り出す力

「自動車部品の生産を始めてからずっと、身の丈以上の仕事を引き受けています」と伊藤社長は笑う。品質、コスト、納期、自動車産業の要求は全てが厳しい。しかし、昨日までの仕事のレベルを一層引き上げるため、常に背伸びをする。そして新しい目標を掲げ、やり遂げることで、確かな成長を自分たちのものにしてきた。

さらに、同社の強みとして、生産設備や検査装置などを自社製造していることが挙げられる。自分たちがどうやって造り、どうやって保証するのか、それらを考え抜いた結果、技術の内製化へとたどり着いたのは自然な流れだった。外製機器では小回りの利かない機能拡張やメンテナンスなども、内製化したことで素早く思い通りに対応でき、同社の競争力向上の一因となっている。近年では、自分たちが品質管理の過程で創出した光色の検査・測定技術をパッケージ化し、高精度測定機として販売している。

背伸びをして得られた成果、これらの実りを収穫するのは常に「人」である。人がノウハウを習得し、経験を蓄積する。販路拡大、売上向上、工場拡張等の右肩上がりの成長の側面で、多くの契約社員を正社員に登用するなど、定着と育成を念頭に置いた人材基盤の強化も同時に推し進めてきた。「会社のこれからの成長を考えると、社員に高い意識を持って業務に臨んでいただく部分が増えてくる。そう考えた結果、正社員への転換をお願いしました。」との言葉からは、持続的な発展への決意が感じられる。

そうして多くの仲間を率い、仲間を支えられながら、「ものづくりにゴールはない。だから面白い。」と楽しそうに語る伊藤社長の目には、今も技術者としての矜持と好奇心が見え隠れする。昨年新設したばかりの第2工場が既に窮屈そうに窺える小滝電機製作所、次なる殻を破るために今日も背伸びを続ける。



A



B



C



D

A 自動車部品のLEDライト
B 棚や作業台など、生産設備はすべて内製
C 日々研究開発に励んでいる
D 事務所の皆さんと社長



株式会社 小滝電機製作所

〒017-0012 秋田県大館市釈迦内宇上袋6番地6
TEL.0186-59-7131 FAX. 0186-59-7132

静岡事務所
〒424-0847 静岡県静岡市清水区大坪1丁目9番15号 佐藤ビル1E
TEL/FAX.054-348-2171
E-mail otaki@otaki-elc.co.jp
URL http://www.otaki-elc.co.jp/

○創業/1980年
○資本金/1000万円
○従業員数/180人
○営業品目/自動車・通信・映像関連分野における、部品購買・受託設計・受託生産・製品OEM供給および自社製品販売